

令和3年1月13日
京都市文化市民局

〔担当：文化芸術都市推進室〕
文化芸術企画課366-0033

令和2年度京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞の被表彰者の決定について

京都市では、本市出身者又は本市内において活発な文化芸術活動を行い、全国的にも評価を高め、将来を嘱望される方々に「京都市芸術新人賞」を、また、同じく京都市内で活動を行い、新人の育成又は芸術に係る活動環境の向上に多大の功労があった方々に「京都市芸術振興賞」を授与し、その功績を称えています。

この度、令和2年度の被表彰者を決定しましたので、お知らせします。

記

1 被表彰者（敬称略・五十音順）（別紙1参照）

(1) 京都市芸術新人賞（11件）

いながき みちこ 稲垣 路子	(洋楽 (トランペット))
いのうえ まい 井上 舞	(日本画)
きのした ゆういち 木ノ下 裕一	(演劇 (監修・補綴))
くるり	(音楽)
こんたくと ごんぞ contact Gonzo	(現代美術／パフォーマンス)
たにざわ さわこ 谷澤 紗和子	(現代美術)
たるま しょうこ 柞磨 祥子	(漆芸)
なかの りょうた 中野 量太	(映画 (監督))
ふくだ きはる 福田 季生	(日本画)
もりみ とみひこ 森見 登美彦	(文学 (小説))
わかき くるみ 若木 くるみ	(版画／現代美術)

(2) 京都市芸術振興賞（9件）

いちだ ひろみ 市田 ひろみ	(服飾文化)
かじたに のぶこ 梶谷 宣子	(染織)
きし てつお 喜志 哲雄	(学術 (演劇評論))
きしろ よしじ 木代 喜司	(彫刻)
しらいし たかこ 白石 孝子	(洋楽 (フルート・指揮))
はやし みえこ 林 美恵子	(邦楽 (柳川三味線))
やまぐち とみぞう 山口 富藏	(食文化)
公益財団法人稲盛財団 いなもりざいだん	(芸術振興 (文化全般))
かんさいびじゅついん 関西美術院	(芸術振興 (美術))

2 添付資料

- 別紙1 京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者功績調書
- 別紙2 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員名簿
- 別紙3 京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者一覧（過去3年分）

3 その他

表彰式については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、現在、調整中であり、決定次第お知らせします。

(参考) 京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞について

本制度は、昭和50年度に創設し、令和元年度までに京都市芸術新人賞として231名の方々を、京都市芸術振興賞として119名の方々を表彰しています。

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏名	いながき 稲垣 みちこ 路子	分野	洋楽 (トランペット)
		年齢	40歳 (昭和55年生)
住所	京都市西京区		
功績	<p>愛知県立芸術大学音楽学部卒業。トランペットを竹本義明, 津堅直弘, 武内安幸の各氏に師事し, ソリストとして日本フィルハーモニー交響楽団, 東京交響楽団, セントラル愛知交響楽団, 新日本フィルハーモニー交響楽団, 中部フィルハーモニー交響楽団などと共演した。</p> <p>平成20年に第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第1位, 平成21年には第78回日本音楽コンクールトランペット部門第1位, 岩谷賞, E. ナカミチ賞を受賞するなど, 高い演奏技術が評価されている。</p> <p>日本 (旧大阪) センチュリー交響楽団を経て, 平成23年, 京都市交響楽団に入団。数多くのコンサートに出演するとともに, 自身の演奏活動を継続するほか, 大阪音楽大学, 名古屋芸術大学等で非常勤講師を務めるなど, 後進の育成にも尽力している。</p>		
経歴	<p>昭和55年 名古屋市に生まれる</p> <p>平成15年 愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業 愛知県立芸術大学卒業演奏会出演 ヤマハ新人演奏会出演</p> <p>19年 ブラスアンサンブル・ロゼ CD 「Brass Ensemble ROSE WITH ELEGANCE」リリース</p> <p>22年 リサイタル開催 日本 (旧大阪) センチュリー交響楽団 (~23年)</p> <p>23年 NHK-FM 「名曲リサイタル」出演 京都市交響楽団に入団</p> <p>24年 ブラスアンサンブル・ロゼ CD 「Brass Ensemble ROSE WITH ROMANCE」リリース</p>		
受賞歴	<p>平成15年 愛知県立芸術大学 桑原賞</p> <p>20年 日本管打楽器コンクールトランペット部門第1位</p> <p>21年 日本音楽コンクールトランペット部門第1位, 岩谷賞, E. ナカミチ賞</p>		
現在	京都市交響楽団団員, ブラスアンサンブル・ロゼメンバー, 七吹神喇叭 倶楽部メンバー, 大阪音楽大学非常勤講師, 相愛大学非常勤講師, 名古屋芸術大学非常勤講師		

*年齢は受賞日 (令和3年1月20日) 現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏 名	井上 舞		分野	日本画
			年齢	27歳(平成5年生)
住 所	大阪府大阪市			
功 績	<p>京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画を修了。東洋のモチーフを中心に、自然や人工物などの現代のモチーフを組み合わせ、再構築した作品を制作。伝統的な日本画の技法で「盆栽」に「機械」を埋め込んだ作品などで、京都・東京での個展、グループ展に多数参加している。</p> <p>平成28年には上野の森美術館大賞展絵画大賞、今年「日本画新展」奨励賞・京都商工会議所会頭賞を受賞するなど、受賞を重ねており、今後、一層の活躍が期待されている。</p>			
経 歴	<p>平成 5年 大阪府に生まれる</p> <p>29年 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業 日中文化交流協会大学生訪中団(北京、貴州、上海/中国)</p> <p>31年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画修了</p> <p>令和 元年 京都市立芸術大学総合基礎実技研究室非常勤講師(～2年)</p> <p>2年 京都市立芸術大学日本画専攻非常勤講師(～現在)</p> <p>(個展等)</p> <p>平成26年 出町櫛形商店街 シャッターペイント(出町なかにし/京都)</p> <p>29年 個展(ギャラリーモーニング/京都)</p> <p>30年 第34回上野の森美術館大賞展絵画大賞受賞者井上舞展(上野の森美術館ギャラリー/東京)</p> <p>令和 元年 「不安定なシンボル」(ギャラリーモーニング/京都)</p> <p>(グループ展等)</p> <p>平成27年 「新米展」(ガレリア円町/京都)</p> <p>28年 「起爆展」(南京町ギャラリー蝶屋/兵庫)</p> <p>「nurture展」(京都市立芸術大学)</p> <p>「輪形展」(Impact Hub Kyoto/京都)</p> <p>29年 京都市立芸術大学 作品制作展(京都市美術館)</p> <p>Prologue X111(GALLERY ART POINT/東京)</p> <p>30年 佐藤国際文化育英財団第27期奨学生美術展(佐藤美術館/東京)</p> <p>「Favorite Art View」(ギャラリーモーニング/京都)</p> <p>31年 京都市立芸術大学作品展(京都市立芸術大学)</p> <p>令和 元年 「新日本綺行II 妖怪変花」(SUNABAギャラリー/大阪)</p> <p>VvK Program 25 増田敏也キュレーション「Small impact」(KUNST ARZT/京都)</p> <p>「artKYOTO 2019」レセプション会場展示(ザ・リッツ・カールトン京都)</p> <p>2年 FACE展選抜作家小品展(REIJINSHA GALLERY/東京)</p> <p>受賞歴</p> <p>平成28年 第34回上野の森美術館大賞展絵画大賞 シェル美術賞2016入選</p> <p>29年 京都市立芸術大学卒業制作展山口賞 公益財団法人佐藤国際文化育英財団第27期奨学生採用</p> <p>31年 FACE展2019損保ジャパン日本興亜美術賞展入選</p> <p>令和 2年 京都 日本画新展2021 奨励賞・京都商工会議所会頭賞</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏 名	きのした ゆういち 木ノ下 裕一	分 野	演劇 (監修・補綴)
		年 齢	35歳 (昭和60年生)
住 所	京都市右京区		
功 績	<p>小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。平成18年、京都造形芸術大学在学中に古典演目の監修・補綴を自らが担当し、現代的上演を行う「木ノ下歌舞伎」を旗揚げ。以降、様々な演出家と共同で上演するというスタイルで創作活動を続けている。</p> <p>平成29年、文化庁芸術祭新人賞を受賞、同年度の京都市芸術文化特別奨励者として認定され、令和2年には京都府文化賞奨励賞を受賞するなど、将来を嘱望されている。</p>		
経 歴	<p>昭和60年 和歌山市に生まれる</p> <p>平成18年 京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科在学中に「木ノ下歌舞伎」旗揚げ、第1回公演「yotsuya-kaidan」(演出 杉原邦生)</p> <p>22年 滞在制作企画「京都×横浜プロジェクト」3作品を制作(～24年)</p> <p>24年 急な坂スタジオサポートアーティスト(～26年)</p> <p>25年 「三番叟／娘道成寺」にて初の海外からの招聘によりチリ公演を実施 KYOTO EXPERIMENT2013公式プログラム「木ノ下歌舞伎ミュージアム“SAMBASO”」(京都芸術劇場 春秋座) 「黒塚」(十六夜吉田町スタジオ/横浜)(再演27年(三重、岐阜、京都、東京、新潟)、28年(パリ日本文化会館)) フェスティバル/トーキョー主催プログラム「東海道四谷怪談-通し上演-」(あうるすぽっと/東京)</p> <p>26年 京都造形大学大学院博士課程単位取得満期退学、公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー(～令和2年) KYOTO EXPERIMENT2014公式プログラム「三人吉三」(京都芸術劇場 春秋座)(再演27年(東京))</p> <p>27年 アトリエ劇研アソシエイトアーティスト、「心中天の網島」(アトリエ劇研/京都、こまばアゴラ劇場/東京)</p> <p>28年 博士号(芸術博士)取得 「義経千本桜一渡海屋・大物浦一」(愛知県芸術劇場、東京芸術劇場、ハートフルホール/愛知) 「勸進帳」(まつもと市民芸術館/長野、穂の国とよはし芸術劇場/愛知、京都芸術劇場 春秋座、北九州芸術劇場)</p> <p>29年 「隅田川／娘道成寺」(こまばアゴラ劇場、アトリエ劇研) 「心中天の網島 -2017リクリエーション版-」(ロームシアター京都、三重県文化会館、四国学院大学/香川、メディキット県民文化センター/宮崎、横浜にぎわい座) 木ノ下歌舞伎オープンラボ(京都芸術劇場春秋座)(同令和元年第2・第3期)</p> <p>30年 渋谷・コクーン歌舞伎「切られる与三」補綴(シアターコロン/東京) シンポジウム基調講演「日仏の古典演劇」(パリ第3大学) ジャポニズム2018公式企画「勸進帳」(ポンピドゥ・センター/パリ)</p> <p>31年 「糸井版・撰州合邦辻」(ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT/愛知、KAAT 神奈川芸術劇場)(再演令和2年(東京、京都))</p> <p>令和 元年 「娘道成寺」(京都芸術劇場)</p>		
受 賞 歴	<p>平成25年 CoRich 舞台芸術まつり! 2013春グランプリ受賞作(「黒塚」)</p> <p>27年 読売演劇大賞2015年上半期作品賞ノミネート(「三人吉三」)</p> <p>29年 文化庁芸術祭新人賞(「勸進帳」) 京都市芸術文化特別奨励者</p> <p>31年 公益財団法人大桑教育文化振興財団 大桑文化奨励賞</p> <p>令和 2年 京都府文化賞奨励賞</p>		

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

名 称	くるり			分 野	音楽
	年 齢	岸田 繁	44歳 (昭和51年生)	佐藤征史	43歳 (昭和52年生)
		ファンファン	35歳 (昭和60年生)		
住 所	東京都				
功 績	<p>平成8年、立命館大学のサークル内で結成されたロックバンド。平成10年のメジャーデビュー以降、数多くのシングル、アルバムをリリースし、ライブツアーや大型ロックフェスにも多数出演するなど精力的に活動を続ける。現在、メンバーは、岸田繁氏、佐藤征史氏、ファンファン氏の3名。</p> <p>平成19年から「京都音楽博覧会」を主催し、梅小路公園という都市の中心部における音楽フェスティバルを定着させる。14回目となる今年は、新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、オンラインでの開催を試み、成功させた。</p> <p>また、岸田氏は京都精華大学特任准教授を務めるとともに、作曲した「交響曲第1番」「同第2番」が京都市交響楽団により披露されるなど、活動の場を広げている。</p>				
経 歴	平成 8年	立命館大学の音楽サークル「ロック・コミュニケーション」にて同級生だった岸田繁氏、佐藤征史氏、森信行氏の3名でバンド「くるり」を結成			
	10年	シングル「東京」でメジャーデビュー。以降、コラボ含むシングル30枚以上をリリース			
	11年	アルバム「さよならストレンジャー」をリリース。以降、12枚のアルバムをリリース			
	16年	京都出身バンドを中心とした「みやこ音楽祭」開催(～23年)			
	19年	「京都音楽博覧会」開催(梅小路公園/京都)(～令和元年、2年オンライン開催)			
	23年	ファンファン氏が加入			
	26年	佐藤氏を代表に新事務所「NOISE McCARTNEY」を設立			
	28年	結成20周年のベストアルバム「くるりの20回転」を発表			
	29年	京都府文化観光大使に就任			
		その他、55本以上のライブツアーを実施するほか、「FUJI ROCK FESTIVAL」、「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」、「RISING SUN ROCK FESTIVAL」など大型ロックフェスにも多数出演			
<現メンバー>					
	岸田繁氏	昭和51年京都市北区生まれ。ボーカル、ギター。立命館大学産業社会学部卒業			
	(主な経歴)				
	平成23年	映画「まほろ駅前多田便利軒」で音楽を担当			
	28年	「交響曲第1番」作曲。京都市交響楽団演奏・広上淳一指揮で初演 京都精華大学ポピュラーカルチャー学部客員教授(～30年)			
	29年	「ほんの小さな出来事のためのファンファーレ」を「サントリー1万人の第九(MBS)」に書き下ろし(指揮:佐渡裕)			
	30年	「交響曲第2番」作曲。京都市交響楽団演奏・広上淳一指揮で初演 京都精華大学ポピュラーカルチャー学部特任准教授			
	佐藤征史氏	昭和52年京都府亀岡市生まれ。ベース。立命館大学法学部卒業			
	ファンファン氏	昭和60年京都府舞鶴市生まれ。トランペット。同志社女子大学卒業。23年加入			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

名 称	contact Gonzo		分 野	現代美術／パフォーマンス
	年 齢	塚原悠也 41歳 (昭和54年生) 三ヶ尻敬悟 40歳 (昭和55年生) 松見拓也 34歳 (昭和61年生) NAZE 31歳 (平成 元年生)		
住 所	大阪府大阪市			
功 績	<p>平成18年に塚原悠也氏と垣尾優氏により結成されたパフォーマンス集団。現メンバーは、塚原悠也氏、三ヶ尻敬悟氏、松見拓也氏、NAZE 氏の4人体制。「contact Gonzo」とは、70年代のゴンゾ・ジャーナリズムに由来し、身体を「接触」させる独自の方法論の名称である。まちなかや劇場などで即興的なパフォーマンスを繰り広げて、映像や写真作品を制作し、その記録映像を配信するなど、メディアを活用した活動を展開。他のアーティストとのコラボレーションも数多く、現代美術の分野でも注目されている。平成25年には、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) にてパフォーマンスを発表、その他、多くの国際展や芸術祭に参加。</p> <p>メンバーの塚原氏は、令和元年から「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭」の共同ディレクターに就任している。</p>			
経 歴	平成18年	ダンサーの塚原悠也氏、垣尾優氏により結成 (現メンバーは、塚原悠也氏、三ヶ尻敬悟氏、松見拓也氏、NAZE 氏の4人体制)		
	令和 2年	メンバーの塚原悠也氏が KYOTO EXPERIMENT の共同ディレクターに就任		
(個展等)	平成26年	個展「様々な困難を伴う作業の痕跡と音」(山本現代／東京)		
	29年	「コンタクト・ゴンゾ フィジカトピア展」(ワタリウム美術館／東京)		
	令和 元年	contact Gonzo+YCANパイオ・リサーチ「wow, see you in the next life. /過去と未来、不確かな情報についての考察」(山口情報芸術センター[YCAN] スタジオA)		
(グループ展等)	平成20年	吉原治良賞記念アートプロジェクト (大阪現代美術センター) 「南京トリエンナーレ2008」(南京博物院／中国)		
	22年	「あいちトリエンナーレ2010」(愛知芸術文化センター等) 「六本木クロッシング」展 (森美術館／東京)		
	23年	「風穴」展 (国立国際美術館／大阪)		
	24年	新 incubation2 「Stelarc×contact Gonzo; Body Overdrive」 (京都芸術センター)		
	25年	パノラマ・ダンスフェスティバル (ブラジル)		
	26年	ニューヨーク近代美術館 (MoMA) でのパフォーマンス (アメリカ)		
	27年	KYOTO EXPERIMENT 「xapaxnannan : 私たちの未来のスポーツ」 (西京極スタジアム／京都) インドネシア・ダンスフェスティバル (インドネシア)		
	28年	「知らない都市—INSIDE OUT」展 (京都精華大学ギャラリーフロール) 「アートコートフロンティア」展 (アートコートギャラリー／大阪) 「ぼこぼこアワー」(アートエリア B1／大阪)		
	29年	瀬戸内国際芸術祭2016 (伊吹島／香川) KYOTO EXPERIMENT 「てすらんぱしり」 足立智美との協働作品 (京都府民ホールアルティ) チョイ・カファイ作品「soft machine」出演 (サドラーズ・ウェルズ劇場／イギリス) 金氏徹平個展クロージング・イベント・コラボレーションによるパフォーマンス作品発表 (丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／香川)		
	30年	ホンマタカシ×コンタクト・ゴンゾ『鹿を殺すと残る雪』(京都芸術センター)		
	令和 元年	のせでんアートライン 2019 避難訓練 (能勢妙見山よろずや／大阪)		
	2年	鉄道芸術祭 vol.10 「GDP (Gonzo dot party)」 (京阪電車なにわ橋駅アートエリア B1／大阪)		
受 賞 歴	平成23年	セゾン文化財団助成対象アーティスト (～平成29年)		
	26年	トヨタコレオグラフィアワード 2014 ファイナリスト (塚原悠也氏)		
	27年	咲くやこの花賞 美術部門		

*年齢は受賞日 (令和3年1月20日) 現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏名	たにぎわ 紗和子		分野	現代美術
			年齢	38歳(昭和57年生)
住所	京都市北区			
功績	<p>京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程を修了。「妄想力の拡張」をテーマに、広大な妄想や想像力が解放されることを目指し、原始宗教や民話などの土着的な寓話などを参照しながら、陶・切り紙など用いて巨大なインスタレーションや小さな人形などを制作している。</p> <p>平成29年の東アジア文化都市「アジア回廊現代美術展」への出展のほか、多くの個展・グループ展に参加するなど、精力的に活動が続けている。</p>			
経歴	<p>昭和57年 大阪市に生まれる</p> <p>平成17年 Royal College of Art へ交換留学</p> <p>19年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了</p> <p>(個展等)</p> <p>平成17年 個展 (Royal College of Art Blue room/ロンドン), 「萌芽のとき」(ギャラリー16/京都)</p> <p>18年 「There is」(石田大成社ホール/京都), 「羽毛が頬にちくちく刺さって痛い」(voice gallery pfs/w/京都)</p> <p>20年 「HUG」(MEM/大阪)</p> <p>22年 「お楽しみ会の準備」(MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w/京都)</p> <p>23年 「会場」(MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w/京都)</p> <p>24年 「ミンハマグリ」(大阪府立中之島図書館)</p> <p>26年 「よすがのもり」(森林食堂/京都)</p> <p>28年 「むろ」(See Saw Gallery+hibit/愛知), 「みらいのもり」(森林食堂/京都)</p> <p>「COLLECTION」(VOU/京都)</p> <p>(グループ展等)</p> <p>平成18年 京都府美術工芸新鋭選抜展(京都文化博物館), STAY WITH ART 2006 What's entertainment (HOTEL T' POINT/東京)</p> <p>19年 Bunkamura Art Show 2007 (Bunkamura ギャラリー/東京)</p> <p>20年 群馬青年ビエンナーレ08 (群馬県立近代美術館)</p> <p>21年 FIX (元立誠小学校/京都)</p> <p>22年 FUTURE PRIMITIVE (MA2Gallery/東京), 「きょう・せい」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)</p> <p>24年 PARO HAPPY ART FESTIVAL 2012 (PARO 市内/プータン王国), うんとこスタジオのフリーフリーマート(うんとこスタジオ/京都)</p> <p>25年 Kawaii (CAMP Contemporary Art Meeting Point) (ギリシャ)</p> <p>「Wild, Passionate and Sticky Things 京都美術の130年」(渋谷ヒカリエ/東京)</p> <p>飛鳥 Art Village レジデンス, グループ展(奈良県立万葉文化館)</p> <p>京芸 TransmitProgram#04 KYOTO STUDIO(@KCUA/京都)</p> <p>26年 六甲ミーツアート2014(六甲山/兵庫), 龍野アートプロジェクト2014(ヒガシマル醤油元本社工場/兵庫)</p> <p>27年 琳派400年記念 新鋭選抜展(京都文化博物館), 「化け物展」(青森県立美術館)</p> <p>「The Ghost in You -天国と地獄との結婚(KYOTO ART HOSTEL)</p> <p>「無名 谷澤紗和子×藤野可織」(kunstarzt/京都)</p> <p>28年 高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.5 見えてる景色/見えない景色(高松市美術館/香川)</p> <p>「亡霊一捉えられない何か Beyond the tangible」(瑞雲庵/京都)</p> <p>29年 東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」(二条城/京都)</p> <p>30年 ALLNIGHT HAPS 2018後期「信仰」キュレーション(東山 アーティスト・プレイズメント・サービス/京都)(同令和元年)</p> <p>令和元年 ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭 ちかくのたび(寺本邸/滋賀)</p> <p>2年 「ら抜き仕草」(アートラボあいち/愛知)</p> <p>ヨコハマトリエンナーレ2020(プロット48/神奈川)(副音《SURE INN》のメンバーとして参加)</p> <p>六甲ミーツアート2020(六甲山/兵庫)</p> <p>ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭 ちかくのまち(奥村家住宅/滋賀)</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏名	たろ磨 祥子		分野	漆芸
			年齢	29歳(平成3年生)
住所	京都府亀岡市			
功績	<p>漆の黒にみる深みに魅せられ、液体のような自由な形態を「陰翳」の現代彫刻として表現している。近年、日本と東アジアの古き良きものを取り込み、古美術をマテリアルにして、古伊万里や景德鎮白磁などと漆を調和させたシリーズを発表。また狩野派の重要文化財と同じ空間での発表、「幽玄」なる精神性と溶け合う金箔シリーズなども手がける。</p> <p>京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程を修了し、同大学非常勤講師を務める。京都を拠点に、国内外で作家活動を行っている。フランス、イギリス、台湾でのアートフェアへ推薦され、ロンドンのイースト・ウエストアートアワード奨励賞を受賞。イギリス、ドイツでのレジデンス制作に参加。令和元年には京都市「京都×パリ」へ参加し、パリの作家と共同制作を行う。日英文化季節でイギリス企画個展に招待されるなど、今後も国際的な活躍が期待される漆芸家である。</p>			
経歴	<p>平成 3年 広島県に生まれる 26年 京都市立芸術大学工芸科漆工専攻卒業 28年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了 30年 京都市立芸術大学非常勤講師</p> <p>(個展等) 平成 27年 「Liquid 1」(アトナアートギャラリー/京都) 28年 「Liquid 2」(同時代ギャラリー/京都) 30年 Skye Niseko リゾートホテルコレクション常設展示 (Skye Niseko/北海道) 令和 元年 「実在と黒」(ギャラリー白/大阪) 「Stream -流演-」(The Gallery by SOIL/香港) 「stream 2」(アトナアートギャラリー/京都) 「陰翳と漆」(ギャラリー崇仁/京都) 2年 「SHOKO TARUMA - STREAM」(The Muse Gallery/ロンドン)</p> <p>(グループ展等) 平成 26年 「立体造形2014」(同時代ギャラリー/京都) 「創工会企画『四人展』」(京都文化博物館/京都) 27年 「WHITE」(Muse Gallery/ロンドン) 28年 アーティストインレジデンス「AIR UK 2015」(イギリス) 「Art Rainbow Project 2016」美術館での公開制作(Kunsthalle Rostock/ドイツ) 「EAST-WEST ART AWARD 2016 Exhibition for the Finalists」(La Galleria/ロンドン) 29年 「日韓交流展」(カンヌ市美術館, ソウル梨花女子大学/韓国) 「漆芸の未来を拓く」(輪島漆芸美術館/石川) アートフェア札幌2016(同29年) 30年 神戸アートマルシェ2017(神戸メリケンパークオリエンタルホテル/兵庫) 「3 Dimensions」(The Muse Gallery/ロンドン) 「京都府新鋭選抜展2018」(京都文化博物館/京都)(同31年) 「アートフェアアジア福岡」(ホテルオークラ福岡) 「漆 三人展」(武家屋敷 赤井住宅/三重) 令和 元年 「“余白と陰翳” Season Lao x Shoko Taruma Exhibition」(Gallery NU/韓国) 「SEASON LAO / SHOKO TARUMA EXHIBITION」(芦屋画廊 kyoto) 京都×パリ「京ものアート市場開拓支援事業」参加 「Asia Now」(9 Avenue Hoche, Paris 8e/パリ) 「Infinity Japan contemporary art show 2019」(ホテル・ロイヤル・ニコール・タイペイ/台湾) 「Art Taichung 2019」(ミレニアムホテル台中/台湾) 「2019 Master Jewelry & Craft Show Taiwan」(新光三越/台湾) 2年 「collect 2020」(somerset house/ロンドン) 「Savoir-faire des Takumi ー対話と共創ー展」(パリ, 日本橋高島屋) 「漆ウルトラ展」(高島屋/日本橋, 京都, 大阪)</p>			
受賞歴	<p>平成 26年 京都市立芸術大学卒業作品展 市長賞 27年 立体造形2015 松谷・松縁賞 28年 EAST-WEST ART AWARD 2016 奨励賞</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏 名	なかの りょう た 中野 暁太	
	分 野	映画 (監督)
住 所	神奈川県川崎市	
功 績	<p>京都産業大学卒業後、日本映画学校 (現・日本映画大学) で映画制作を学び、卒業時にただ一人贈られる今村昌平賞を受賞。</p> <p>平成20年、文化庁若手映画作家育成プロジェクトに選出される。</p> <p>平成24年、自主映画『チチを撮りに』でベルリン国際映画祭に選出され、国内外で14の賞を受賞。平成28年、初の商業映画『湯を沸かすほどの熱い愛』で日本アカデミー賞 優秀作品賞、令和2年、『浅田家!』がワルシャワ国際映画祭 最優秀アジア映画賞を受賞するなど、独自の視点と感性で『家族』を描き続け、多くの受賞を重ねている。</p>	
経 歴	<p>昭和48年 香川県丸亀市に生まれる</p> <p>昭和55年 京都市に移住</p> <p>平成9年 京都産業大学卒業後、日本映画学校 (現・日本映画大学) 入学</p> <p>平成20年 文化庁若手映画作家育成プロジェクトに選出</p> <p>(主な監督等作品)</p> <p>平成12年 卒業制作「バンザイ人生まっ赤っ赤。」監督・脚本</p> <p>18年 「ロケットパンチを君に!」監督・脚本・編集</p> <p>20年 「琥珀色のキラキラ」監督・脚本</p> <p>24年 「チチを撮りに」監督・脚本</p> <p>25年 「お兄ちゃんは戦場に行った!？」監督・脚本・編集</p> <p>「沈まない三つの家」監督・脚本・編集</p> <p>28年 「湯を沸かすほどの熱い愛」監督・脚本</p> <p>令和元年 「長いお別れ」監督・脚本</p> <p>2年 「浅田家!」監督・脚本</p> <p>受 賞 歴</p> <p>平成12年 日本映画学校今村昌平賞, TAMA NEW WAVE グランプリ (「バンザイ人生まっ赤っ赤。」)</p> <p>18年 ひろしま映像展グランプリ, 福井映画祭グランプリなど7つの賞を受賞 (「ロケットパンチを君に!」)</p> <p>24年 SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 監督賞 (「チチを撮りに」) ※日本人初の監督賞 ベルリン国際映画祭ほか各国の映画祭に招待され国内外で14の賞を受賞</p> <p>28年 日本アカデミー賞 優秀作品賞・優秀監督賞・優秀脚本賞, ヨコハマ映画祭 監督賞 脚本賞 など国内映画賞で35の賞を受賞 (「湯を沸かすほどの熱い愛」)</p> <p>令和元年 TAMA 映画賞 最優秀作品賞 (「長いお別れ」)</p> <p>2年 ワルシャワ国際映画祭 最優秀アジア映画賞 (「浅田家!」) ※邦画作品初の受賞</p>	

*年齢は受賞日 (令和3年1月20日) 現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏 名	福田 季生		分野	日本画
			年齢	35歳(昭和60年生)
住 所	奈良県桜井市			
功 績	<p>京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻を修了。絹に色絵具で描く、絹本着彩という伝統技法を用い、古典作品を踏まえ、肌や髪の毛の質感などを繊細かつ強く表現した現代的な美人画を描く。京都を拠点に個展を開催するとともに、多くのグループ展に参加している。</p> <p>平成27年以降、日展に入選、平成30年には続「京都日本画新展」優秀賞を受賞するなど、受賞多数。今後益々の活躍が期待される日本画家である。</p>			
経 歴	<p>昭和60年 奈良県桜井市に生まれる</p> <p>平成15年 奈良県立高円高校美術科日本画専攻卒業</p> <p>19年 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業</p> <p>23年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了</p> <p>(個展等)</p> <p>平成23年 個展(ギャラリー恵風/京都)(同25年, 29年, 31年)</p> <p>令和2年 「百花繚乱-花文様-」(ギャラリーアートもりもと/東京, 梅軒画廊/京都)</p> <p>(グループ展等)</p> <p>平成20年 京都市立芸術大学 作品展 卒業制作展</p> <p>22年 日本画院生展(京都市立芸術大学ギャラリー) 「空・花・水-日本画三人展-是永麻貴/福田季生/川嶋渉」(ヤマモトギャラリー/京都) 「京都芸大日本画の現在II」(堀川御池ギャラリー@KCUA/京都)</p> <p>23年 京都市立芸術大学作品展 修了制作展</p> <p>24年 「SILET KCUA 2012」(堀川御池ギャラリー@KCUA/京都)(同25年) 「祇園祭によせて・・・扇子祭」(Art Space-MEISEI/京都) MEISEI 選抜日本画展(Art Space-MEISEI/京都) 贈展(ギャラリー恵風/京都)(同~26年)</p> <p>25年 「新鋭作家選抜展-日本画-」(Art Space-MEISEI/京都) 「池田遊子と知られざる日本絵画~学藝の眼~」(天門美術館/大阪) 大阪教育大学芸術学研究会2013研究発表「日本画制作の現場から-女性美を描く」 権-kai-京都市立芸術大学川嶋渉研究室修了生展(Art Space-MEISEI/京都)(以後, 毎年)</p> <p>28年 琳派400年記念京都府新鋭選抜展(京都文化博物館) 神戸アートマルシェ2016(神戸メリケンパークオリエンタルホテル/兵庫)</p> <p>29年 「それぞれの女性たち展」(Art Space-MEISEI/京都) 「美人画の系譜II-近代と現代-」(西部池袋本店/東京)(以後, 毎年)</p> <p>令和元年 「artKYOTO 2019」(元離宮二条城/京都)</p> <p>2年 「令和・京・美人展」(銀座蔦屋書店GINZA ATRIUM/東京) 「新鋭日本画三人展」(ポルタギャラリー華/京都), 「万人佳人展」(Art Space-MEISEI/京都)</p>			
受賞歴	<p>平成22年 「ギャラリーへ行こう」入選(同24年, 25年, 28年)</p> <p>24年 日春展入選(同27年), 三菱商事アート・ゲート・プログラム入選</p> <p>25年 芝田町画廊公募展次賞・ホルベイン賞</p> <p>27年 改組新日展入選(同28年, 30年, 令和元年)</p> <p>29年 新日春展入選(同~31年)新日春会 会友</p> <p>30年 第5回続「京都 日本画新展」優秀賞</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏名	森見 登美彦		分野	文学(小説)
			年齢	42歳(昭和54年生)
住所	奈良県奈良市			
功績	<p>京都大学大学院農学研究科修了。平成15年、『太陽の塔』で日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、小説家デビューする。以降、数々の著書を刊行し、『夜は短し歩けよ乙女』(山本周五郎賞)、『ペンギン・ハイウェイ』(日本SF大賞)をはじめ、受賞多数。また、舞台、映画、アニメ等に展開された作品も数多い。</p> <p>京都を舞台にしたファンタジーものを得意とし、作品に登場するスポットへの「聖地巡り」が盛んに行われるなど、多くのファンを魅了している。アメリカやフランスなどでは翻訳本が刊行され、国際的にも注目を集める作家として、日本文学の世界発信に貢献。現在、京都文学賞のアンバサダー(応援大使)を務めている。</p>			
経歴	<p>昭和54年 奈良県生駒市に生まれる</p> <p>平成15年 京都大学農学部生物機能科学科応用生命科学コース卒業 『太陽の塔』で第15回日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、小説家デビュー</p> <p>17年 京都大学大学院農学研究科修士課程修了 国立国会図書館職員(～22年)</p> <p>27年 野生時代フロンティア文学賞選考委員</p> <p>29年 『夜は短し歩けよ乙女』映画化 ※オタワ国際アニメーションフェスティバルにおいて、長編部門グランプリを受賞 同映画祭長編部門でのグランプリは日本作品、日本人監督としては初の受賞</p> <p>30年 日本ファンタジーノベル大賞選考委員 『ペンギン・ハイウェイ』映画化 ※カナダ・モントリオールのファンタジア国際映画祭にて、最優秀アニメーション賞に当たる今敏賞(長編部門)を受賞 日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞受賞</p> <p>令和元年 京都文学賞アンバサダー(応援大使)就任</p>			
受賞歴	<p>平成15年 日本ファンタジーノベル大賞(『太陽の塔』(新潮社/平成15年))</p> <p>19年 山本周五郎賞(『夜は短し歩けよ乙女』(KADOKAWA/平成18年))</p> <p>22年 日本SF大賞(『ペンギン・ハイウェイ』(KADOKAWA/平成22年))</p> <p>26年 京都市大賞(『聖なる怠け者の冒険』(朝日新聞出版/平成25年))</p> <p>29年 広島本大賞(『夜行』(小学館/平成28年))※平成28年直木賞ノミネート作</p> <p>令和元年 高校生直木賞(『熱帯』(文藝春秋/平成30年))※平成30年直木賞ノミネート作</p>			
主な著書(受賞作除く)	<p>『四畳半神話大系』(太田出版/平成16年)</p> <p>『きつねのはなし』(新潮社/平成18年)</p> <p>『新釈走れメロス他四篇』(祥伝社/平成19年)</p> <p>『有頂天家族』(幻冬舎/平成19年)</p> <p>『恋文の技術』(ポプラ社/平成21年)</p> <p>『宵山万華鏡』(集英社/平成21年)</p> <p>『四畳半王国見聞録』(新潮社/平成23年)</p> <p>『四畳半タイムマシンブルース』(KADOKAWA/令和2年)</p>			
現在	<p>京都文学賞アンバサダー(応援大使)、野生時代フロンティア文学賞選考委員、日本ファンタジーノベル大賞選考委員</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術新人賞

氏名	若木 くるみ <small>わかき</small>		分野	版画／現代美術
			年齢	36歳(昭和60年生)
住所	京都市南区			
功績	<p>京都市立芸術大学美術学部美術科版画専攻を卒業。素朴な木版画はもとより、自身の後頭部に人物を描き版として用いる、従来の版の表現に留まらないインスタレーションや、特技のランニング(台湾「環花東超級マラソン(333km)」女子優勝(平成25年)、ギリシャ「スパルタスロン(246km)」日本人女子1位 世界女子9位(平成28年))を活かして、身体の限界に挑むパフォーマンスなど、幅広い表現を行っている。これまで、京都を拠点に全国で個展の開催やグループ展への参加を続けるなど、精力的に活動を展開。</p> <p>平成21年、当時最年少で岡本太郎現代芸術賞展岡本太郎賞、平成25年、六甲ミーツ・アート大賞を受賞。今後も一層の活躍が期待される美術家である。</p>			
経歴	<p>昭和60年 北海道に生まれる</p> <p>平成20年 京都市立芸術大学美術学部美術科版画専攻卒業</p> <p>(個展等)</p> <p>平成21年 「水陸両用かのぎょ」(ギャラリーjin/東京)</p> <p>22年 「モーターさま」(其の延長/京都, ギャラリー恵風/京都)</p> <p>23年 「お面」(岡本太郎記念館/東京)</p> <p>24年 「車輪の下らへん」(ギャラリーjin/東京)</p> <p>25年 「若木くるみの制作道場」(坂本善三美術館/熊本) (同26年)</p> <p>27年 「轟」(岡本太郎美術館/神奈川)</p> <p>28年 「ふたりのユニフォーム」(フィンチアーツギャラリー/京都)</p> <p>30年 「版ラン!」(富山県美術館 TAD ギャラリー/富山)</p> <p>令和元年 「ウルトラの滝」(アートゾーン神楽岡/京都)</p> <p>2年 「コースロスト」(フィンチアーツギャラリー/京都)</p> <p>(グループ展等)</p> <p>平成21年 「第12回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館/神奈川)</p> <p>22年 「きょう・せい」(京都芸大ギャラリー@kcu/京都)</p> <p>23年 「版画にこだわる VII」(番画廊/大阪)</p> <p>24年 シブカル祭(ACTINITIES/東京, 同28年 渋谷パルコ/東京)</p> <p>ふくやまアートウォーク(広島) (同26年)</p> <p>25年 六甲ミーツ・アート 芸術散歩(神戸) (同26年)</p> <p>国際パフォーマンスフェスティバル -excentricite- (ブザンソン/フランス)</p> <p>26年 さっぽろアートステージ(北海道)</p> <p>27年 「善三二〇」(坂本善三美術館/熊本)</p> <p>28年 「中景 -The Glory (of phenomenon) :Act」(ホテルアンテルーム/京都)</p> <p>六本木アートナイト(東京)</p> <p>29年 「ソーシャリーエンゲージドアート」(3331/東京)</p> <p>「20人の鬼子たち」(岡本太郎記念館/東京)</p> <p>「のっぴきならない遊動」(京都芸術センター)</p> <p>30年 「一期一圓」(ギャラリーモーニング/京都)</p> <p>福島ビエンナーレ「重湯の芸術祭」(福島)</p> <p>京都国際映画祭(京都)</p> <p>令和元年 「Go Somewhere!」(在カナダ日本国大使館/カナダ)</p> <p>「Mississippi Valley Textile Museum」(オンタリオ/カナダ)</p> <p>TERATOTERA 駅伝芸術祭リターンズ(東京)</p> <p>2年 「版画旅行」(ギャラリーモーニング/京都)</p> <p>受賞歴</p> <p>平成20年 京都市立芸大卒業制作展 市長賞</p> <p>21年 岡本太郎現代芸術賞展 岡本太郎賞</p> <p>25年 六甲ミーツ・アート ミーツ・アート大賞</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏名	市田 ひろみ <small>いちだ</small>		分野	服飾文化
			年齢	88歳(昭和7年生)
住所	京都市上京区			
功績	<p>企業秘書や大映の専属女優を経て、昭和38年から美容師として活動。日本で初めて開講した「きもの教室」や、子どもたちに日本文化を伝える講座、多くの著作やテレビ出演などにより、日本、京都の文化を次代に継承する取組を行ってきた。</p> <p>また、国外での着物ショーの開催が100回を超えるなど、着物を通じて日本文化を世界に広め、国際交流の一翼を担っている。加えて、民族衣装の研究家として、世界100国以上を訪れ収集・保存・研究を行い、「市田ひろみコレクション」として展覧会を行うなど、その成果を広く発信している。令和2年には、これまでに収集した民族衣装など約430セットを京都府立大学へ寄贈した。</p> <p>これらの多彩な活動を通して、京都、日本の服飾文化の発展に大きく寄与している。</p>			
経歴	昭和	7年	大阪府に生まれる 戦後 京都で育つ	
		26年	京都市立堀川高等学校卒業	
		28年	京都府立大学女子短期大学部国文科卒業 企業で秘書を務めた後、大映株式会社の専属女優となる(33年デビュー)。 36年から京都ホテルで美容室を開業した母親の下で修業を積み、38年美容師に転職。日本で初めて「きもの教室」を開催。	
		42年	関西テレビ「ハイ!土曜日です」で日本のテレビで初めて着付け・帯結びのプロセスを紹介	
		43年	世界各地へ民族衣装コレクションの取材開始 これまでに世界100国以上を訪れ、民族衣装の収集、保存など研究を重ねている。また、世界各地で着物ショーをプロデュースしている。	
	平成	20年	G8洞爺湖サミット配偶者プログラムにおいて、十二単の着付けなどを披露	
	令和	元年	展覧会「市田ひろみコレクション 世界民族衣装サミット〜世界の衣装をたずねて〜」(あべのハルカス近鉄アート館/大阪)開催	
		2年	これまでに収集した民族衣装など約430セットを京都府立大学に寄贈 現在は、服飾評論家、エッセイスト等として幅広く活動	
受賞歴	平成	2年	京都府あげぼの賞	
		5年	京都府産業功労者	
		7年	全国和装産地市町村協議会 和装振興功労者、ブラジル文化功労勲章	
		13年	民族衣裳文化功労者表彰 特別きもの文化賞、厚生労働大臣卓越技能者	
		14年	西陣文化賞	
		17年	経済産業省伝統的工芸品産業功労者	
		18年	京都新聞大賞教育社会賞	
		19年	財団法人大日本蚕糸会蚕糸功労者表彰 蚕糸功労賞	
		20年	京都府文化賞功労賞	
主な著書	『市田ひろみの着つけと帯結び』(主婦の友社/平成10年) 『世界の衣装をたずねて』(淡交社/平成11年) 『きものを楽しむ』(淡交社/平成11年) 『衣装の工芸』(求龍堂/平成14年)			
現在	京遊学舎主宰、株式会社市田美容室代表取締役、日本和装師会会長、 全日本きもの振興会理事、京都市観光協会相談役			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏 名	梶谷 宣子	分 野	染織
		年 齢	85歳(昭和10年生)
住 所	京都市中京区		
功 績	<p>東京の自由学園で洋裁や手織物製作に加えて考古学を学ぶ。卒業後、同学園工芸研究所で紙や絹布の染に携わりながら、川島織物研究所をはじめ、日本の伝統染織技法の現場で、様々な材質を扱う心得を修得した。昭和38年に渡米し、染織美術館(ワシントン市)にて、古代染織品の保全の研修を受けた後、昭和41年から平成15年まで、メトロポリタン美術館に勤務。館蔵の世界の博物美術染織品の鑑定、修復、展示を行いながら、各部門で個別に管理されていた3万点以上の染織品を、一括して保全管理する染織品総合収蔵室を開設した。</p> <p>平成17年、京都に住まいを移し、各地域の地勢と気候の特徴によって異なる繊維による染織文化の発祥と派生の探求を続けている。平成25年から2年間、京都市美術館の目指すべき将来像を検討する「将来構想検討委員会」委員を務めた。</p>		
経 歴	<p>昭和10年 東京都に生まれる</p> <p>30年 自由学園(東京)卒業 卒業後、同学園工芸研究所勤務</p> <p>38年 渡米し、染織美術館(ワシントン市)で古代染織品の調査・管理の研修を受ける</p> <p>41年 メトロポリタン美術館勤務。染織品保全部の創設・発展に携わる(～平成15年)</p> <p>平成17年 京都に居を移し、研究を続ける</p> <p>25年 京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」委員(～26年)</p>		
現 在	メトロポリタン美術館終身名誉館員		

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏名	喜志 哲雄		分野	学術 (演劇評論)
			年齢	85歳 (昭和10年生)
住所	京都市右京区			
功績	<p>京都大学文学部英文科卒業後、コロンビア大学へ留学。帰国後、京都大学大学院を修了し、同大学で長くイギリス文学を講じ、現在は名誉教授。日本シェイクスピア協会会長を務めるなど、イギリス演劇、特にシェイクスピアやハロルド・ピンターを主な研究対象とし、深い造詣を持つ。</p> <p>関西で上演される演劇作品のレビューを行う「十三夜会」を50年以上にわたり開催し、月例会は600回以上に及ぶ。同会において、京都で演劇評論を志す者を顕彰し、京都の演劇人や演劇評論を志す人を多く育てた。</p> <p>平成27年には京都府文化賞特別功労賞を受賞。研究者として、指導者として、舞台芸術の振興に多大な貢献をしている。</p>			
経歴	<p>昭和10年 兵庫県西宮市に生まれる</p> <p>33年 京都大学文学部英文科卒業</p> <p>35年 コロンビア大学留学 (～36年)</p> <p>39年 京都大学大学院博士課程単位取得退学 京都大学教養部専任講師</p> <p>42年 京都大学助教授 スタンフォード大学客員准教授 (～43年)</p> <p>48年 京都大学文学部英文科助教授</p> <p>55年 インディアナ大学客員教授</p> <p>57年 京都大学文学部英文科教授</p> <p>平成8年 京都大学大学院文学研究科長 (～10年)</p> <p>11年 京都大学名誉教授 日本シェイクスピア協会会長 (～13年)</p>			
受賞歴	<p>平成12年 兵庫県功労者表彰 (文化功労)</p> <p>21年 兵庫県文化賞</p> <p>22年 国際演劇評論家協会 演劇評論賞 (『シェイクスピアのたくらみ』 (岩波新書/平成20年))</p> <p>23年 国際演劇評論家協会 演劇評論賞 (『劇作家ハロルド・ピンター』 (研究社/平成22年))</p> <p>25年 文化庁芸術祭賞 受賞作『間違いの喜劇～現夢也双子戯劇～の成果』 (兵庫県立ピッコロ劇団) の翻案を担当</p> <p>27年 京都府文化賞特別功労賞</p> <p>令和元年 兵庫県功労者表彰 (県勢高揚功労)</p>			
主な著書 (受賞作除く)	<p>『劇場のシェイクスピア』 (早川書房/平成3年)</p> <p>『英米演劇入門』 (研究社/平成15年)</p> <p>『喜劇の手法 笑いのしくみを探る』 (集英社新書/平成18年)</p> <p>『ミュージカルが《最高》であった頃』 (晶文社/平成18年)</p>			
(翻訳)	<p>『ハロルド・ピンター全集 (全3巻)』 (新潮社/昭和60年, 平成17年新装復刊)</p> <p>『俳優を動かす言葉 戯曲の読み方がわかる20のレッスン』 (白水社/平成25年)</p> <p>『から騒ぎ』 (岩波書店/令和2年)</p>			
現在	京都大学名誉教授			

*年齢は受賞日 (令和3年1月20日) 現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏名	木代 喜司		分野	彫刻
			年齢	80歳(昭和15年生)
住所	京都市北区			
功績	<p>京都学芸大学(現京都教育大学)大学院美術工芸専攻科修了。永年、小学校教員として勤務しながら彫刻制作を続け、昭和38年に日展に初入選し、昭和56年、57年に同特選。平成13年に京都美術文化賞、30年に京都府文化賞功労賞を受賞した。昭和60年からは、京都教育大学で教鞭を執り、後進の育成に尽力し、現在は同大学名誉教授。</p> <p>平成3年から彫刻の作品を手で触れて楽しむ特別鑑賞会である「手で触れる日展」を企画、実施するなど、障害のある方の芸術活動の振興にも尽力している。</p>			
経歴	<p>昭和15年 京都市に生まれる</p> <p>37年 京都学芸大学(現京都教育大学)特修美術科卒業</p> <p>38年 京都学芸大学(現京都教育大学)大学院美術工芸専攻科修了 修了後、京都府の小学校教員となり、永年にわたり教員として勤務しながら彫刻制作を継続</p> <p>60年 京都教育大学美術科教官(～平成15年)</p> <p>平成15年 京都教育大学名誉教授</p> <p>17年 日展評議員</p> <p>平成3年 「手で触れる日展」を企画、実施(～以降毎年)</p> <p>(個展等)</p> <p>昭和63年 全国身体障害者スポーツ大会記念メダル制作</p> <p>平成13年 夏の全国高等学校野球大会メダル制作(～15年)</p> <p>30年 「ボクのやっていることはなんだ」(Gallery morning/京都)</p> <p>令和2年 「木代喜司展 傘寿展」(ギャラリー小西/京都) 「木代喜司展」(ギャラリー恵風/京都)</p> <p>(グループ展等)</p> <p>令和元年 第43回京都彫刻家協会展(京都府立文化芸術会館) 第3回植物園彫刻小品展(京都府立植物園)</p> <p>2年 第27回「心に響く小品展 ー今、表現者としてー」(ギャラリーヒルゲート/京都)</p> <p>受賞歴</p> <p>昭和38年 日展初入選 京展市長賞(49年、52年同賞)</p> <p>56年 日展特選(57年同賞)</p> <p>平成3年 紺綬褒章</p> <p>13年 京都美術文化賞</p> <p>17年 コンスタンチン・ブランクーシ賞奨励賞</p> <p>28年 日展会員賞</p> <p>30年 京都府文化賞功労賞</p> <p>現在 京都教育大学名誉教授、日展特別会員、京都彫刻家協会会員</p>			

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏 名	白石 孝子		分野	洋楽 (フルート・指揮)
			年齢	82歳 (昭和13年生)
住所	京都市山科区			
功績	<p>国立音楽大学器楽科 (フルート専攻) 卒業後、「ウインドアーツ木管5重奏団」「京都室内合奏団」「あうろすフルートあんさんぶる」を結成。ウィーンで初のフルートオーケストラ演奏を行うなど積極的な演奏活動を続ける。また、京都市交響楽団では38年間活動し、昭和37年から5年間、首席奏者を務めた。平成10年にはドイツで指揮者としてデビュー。ソロ、アンサンブル、オーケストラなど国内外での演奏、指揮は、約4,000回にのぼる。</p> <p>指導者としては、京都市立堀川音楽高校、京都市立芸術大学音楽学部などで、永年後進育成に尽力。また、昭和55年、若手からベテランまで、京都の音楽家の活躍の場である「京都芸術祭音楽部門」を、平成7年、世界から参加者が集い、国際的にも高く評価されている「びわ湖国際フルートコンクール」を創設。ともに、現在まで実行委員長として企画、開催し、多くの音楽家の活動環境の向上に寄与してきた。更に、平成18年、「ムジカA国際音楽協会」を創設し、京都のほか、ウィーン、パリ等で演奏。京都の音楽家を各国に紹介するなど、京都の洋楽界に大きく貢献している。</p>			
経歴	<p>昭和13年 中国 (旧満州) に生まれる</p> <p>35年 国立音楽大学器楽科 (フルート専攻) 卒業 「ウインドアーツ木管5重奏団」「京都室内合奏団」を結成 京都市交響楽団に入団</p> <p>36年 京都市立堀川音楽高校にて教鞭を執る (～平成16年)</p> <p>37年 京都市立芸術大学音楽学部にて教鞭を執る (～平成8年)</p> <p>50年 「南フランス芸術フェスティバル」に出演 京都、東京、大阪、広島にてリサイタル開催 「京都市交響楽団定期演奏会」「京都市立芸術大学音楽学部定期演奏会」等でソロ出演 NHK テレビ (全国放送) にソロ出演 (6回)</p> <p>55年 「あうろすフルートあんさんぶる」を結成し、京都のほかパルフィー宮殿 (ウィーン) 他で演奏 「京都芸術祭音楽部門」を創設。毎年企画・開催し実行委員長を務める 「関西フルートオーケストラ」「コールグローリア混声合唱団」を結成し、 毎年「京都芸術祭音楽部門」に出演 「山科文化芸術振興会」を設立</p> <p>7年 「びわ湖国際フルートコンクール」を創設</p> <p>10年 ドイツで指揮者としてデビュー。以来、京都、大阪、東京、広島のほか、ウィーン、パリ、イタリア、ドイツ、韓国などで指揮</p> <p>11年 相愛大学音楽学部にて教鞭を執る (～平成23年)</p> <p>18年 「ムジカA国際音楽協会」を設立。パルフィー宮殿他での記念公演を開催、指揮</p> <p>20年 「ムジカA国際音楽協会」会員による「アンサンブル・ムジカ・ジャパン」として、「アルバ音楽祭」・ブスカ市 (ともにイタリア)、パリなどで演奏、指揮</p> <p>23年 パリにて演奏、指揮。公演に際し、京都市長の親書をパリ市長に伝達</p> <p>29年 「アルバ音楽祭」・ブスカ市コンサートにて、指揮 (同令和元年)</p>			
受賞歴	<p>平成4年 社団法人春秋会 市民奉仕活動奨励賞</p> <p>5年 チェリアナ市 (イタリア) から勲章を受章 トウルットウ・ル・ヴァンス市 (フランス) から勲章を受章</p> <p>15年 滋賀県高島町 (現 高島市) 音楽文化奨励賞</p> <p>21年 藤堂頭一郎音楽褒賞</p>			
現在	<p>京都芸術祭音楽部門実行委員長、びわ湖国際フルートコンクール実行委員長、同審査員、ムジカA国際音楽協会顧問、あうろすフルートあんさんぶるの主宰、関西フルートオーケストラ団長</p>			

*年齢は受賞日 (令和3年1月20日) 現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏名	林 美恵子	分野	邦楽（柳川三味線）
		年齢	71歳（昭和24年生）
住所	京都市上京区		
功績	<p>昭和32年から京都下派地歌・箏曲演奏家 三好敦子氏に師事。昭和42年に内弟子入りし、その後、現代音楽演奏研鑽のため沢井忠夫氏に、柳川三味線による古典習得のため津田道子氏に師事する。以降、永年にわたり、柳川三味線奏者として京都を拠点に海外公演を含め活動。「林美恵子と門下による地歌・箏曲演奏会」は、これまでに46回開催され、自身の演奏を披露するとともに後継者育成にも尽力されている。</p> <p>また、近年、三味線の原材料（象牙、猫皮、紅木等）が入手困難という状況の下、中でも消耗品である「皮」の今後を案じて、胴皮部分を和紙張で代替する研究をし、今年の演奏会で演奏を披露するなど、その成果を挙げつつある。</p>		
経歴	<p>昭和32年 京都下派地歌・箏曲演奏家 三好敦子氏に師事</p> <p>42年 内弟子入り</p> <p>その後、現代音楽演奏研鑽のため沢井忠夫氏に師事、柳川三味線による古典習得のため津田道子氏に師事</p> <p>平成6年 国際交流基金の派遣により中国（北京、瀋陽、上海）にて公演</p> <p>9年 「世界民族フェスティバル」（ポーランド）</p> <p>10年 「京の夕べ」（ハワイ）</p> <p>16年 「中日交流音楽会」（外事弁公室・国際交流センターの招聘にて交流公演）（中国蘇州）</p> <p>22年 国立劇場150回邦楽公演</p> <p>「子供のための優れた舞台芸術体験授業」（文科省・文化庁連携事業）講師</p> <p>25年 「次代を担う子供の文化体験授業」（文科省・文化庁連携事業）講師</p> <p>令和元年 第46回「林美恵子と門下による地歌・箏曲演奏会」</p>		
現在	<p>一般社団法人京都當道会大師範、京都教育大学音楽科非常勤講師、 京都教育大学附属桃山小学校講師</p>		

*年齢は受賞日（令和3年1月20日）現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

氏名	山口 富藏	分野	食文化
		年齢	83歳(昭和12年生)
住所	京都市下京区		
功績	<p>東京銀座「松崎煎餅」で修業の後、京都に戻り、父・竹次郎氏のもとで家業に従事。昭和45年に「亀屋末富」の3代目を継承する。永年にわたり、京菓子の職人として、茶道三千家や各宗本山の御用を務め、伝統的な和菓子の継承に努める一方、茶会の趣向を表現したオリジナルの新しい菓子を作り出している。</p> <p>また、同志社大学、京都精華大学、裏千家学園などで、茶席で果たす菓子の役割を伝えるとともに、菓子作りの製作実演を通じて後進の育成にも尽力するなど、京菓子の継承・発展、ひいては食文化の振興に大きく寄与。平成31年文化庁長官表彰を受賞した。</p>		
経歴	<p>昭和12年 京都市に生まれる</p> <p>35年 関西学院大学経済学部卒業</p> <p>36年 4月より東京銀座「松崎煎餅」で修行の後、父・竹次郎氏のもとにて家業に従事</p> <p>45年 亀屋末富(明治26年創業)3代目を継承</p> <p>平成元年 株式会社末富 代表取締役社長</p> <p>30年 株式会社末富 代表取締役会長</p>		
受賞歴	<p>平成23年 茶道文化賞 茶道文化振興賞</p> <p>31年 文化庁長官表彰</p>		
主な著書	<p>『京都末富 山口富藏の京菓子読本』(中央公論新社/平成2年)</p> <p>『京・末富 菓子ごよみ』(淡交社/平成13年)</p> <p>『菓子司・末富「京菓子の世界」』(世界文化社/平成23年)</p>		
現在	<p>株式会社末富 代表取締役会長</p> <p>裏千家学園非常勤講師</p>		

*年齢は受賞日(令和3年1月20日)現在

賞の区分 京都市芸術振興賞

<p style="text-align: center;">いなもりざいだん</p> <p>名 称 公益財団法人稲盛財団</p>	<p>分 野 芸術振興（文化全般）</p>
<p>住 所 京都市下京区</p>	
<p>功 績</p> <p>昭和59年に京セラ(株)創業者の稲盛和夫氏によって設立された財団。「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」そして、「人類の未来は、科学の発展と人類の精神的深化のバランスがとれて、初めて安定したものになる」という創立者の理念に基づき、科学や技術、思想・芸術の分野に大きく貢献した人を顕彰する国際賞「京都賞」の実施や、学術研究活動への助成、イベントの開催や寄附などの社会貢献活動を行っている。</p> <p>令和2年、新型コロナウイルス感染症の影響下で「稲盛財団文化芸術支援プログラム」を実施。公演のキャンセル等により苦境に立つ文化芸術活動を支援している。</p>	
<p>沿 革</p> <p>昭和59年 財団法人稲盛財団設立（創業者：稲盛和夫、現理事長：金澤しのぶ）</p> <p>60年 第1回稲盛財団研究助成金贈呈式開催 第1回京都賞授賞式開催、ノーベル財団に特別賞を授与</p> <p>平成13年 「日米リーダーシップ会議」開催（東京）</p> <p>14年 「京都賞シンポジウム（Kyoto Prize Symposium）」開始（アメリカ）</p> <p>15年 「京都文化会議」開催（京都府・京都大学との共催 ～19年）</p> <p>16年 「京都賞20周年記念フォーラム」開催</p> <p>17年 ケースウエスタンリザーブ大学（アメリカ）に寄附を実施し、「倫理と叡智のための稲盛国際センター」設立を支援</p> <p>19年 メルケル独首相来日記念シンポジウム開催（毎日新聞社との共催）</p> <p>20年 京都大学に「稲盛財団記念館」寄贈、「こころの未来研究センター」へ支援実施</p> <p>21年 九州大学に「稲盛財団記念館」寄贈</p> <p>23年 公益財団法人の認定を受け「公益財団法人稲盛財団」へ移行 東日本大震災復興ボランティア団体への助成を実施</p> <p>24年 大阪大学大学院国際公共政策研究科へ寄附講座設置</p> <p>26年 アル・ゴア元アメリカ合衆国副大統領による稲盛財団設立30周年記念講演会を開催 第1回KUIP（京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム）開催</p> <p>27年 京都大学「京都こころ会議」の開催を支援</p> <p>28年 ジョン・ノイマイヤー京都賞受賞記念、ハンブルク・バレエ団日本公演を特別協賛 松山バレエ団“新「白鳥の湖」”京都公演を主催し、市民4,800名を無料招待</p> <p>29年 オックスフォード大学（イギリス）にて「Kyoto Prize at Oxford」開始</p> <p>30年 ハンブルク・バレエ団京都公演を特別協賛</p> <p>31年 稲盛科学研究機構（InaRIS）フェローシップを創設</p> <p>令和 元年 京都市勧業館にて「こども科学博-宇宙のふしぎ-」開催</p> <p>2年 京都市京セラ美術館内に京都賞展示コーナー開設 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた実演芸術活動を支援する「稲盛財団文化芸術支援プログラム」を実施</p>	

賞の区分 京都市芸術振興賞

名 称	かんさいびじゅついん 関西美術院	分 野	芸術振興（美術）
住 所	京都市左京区		
功 績	<p>明治39年に設立。洋画家の浅井忠が初代院長を務めた、110年の歴史を有する洋画研究所。明治維新以降の急激な欧化政策の反動で、京都府画学校（現在の京都市立芸術大学）から事実上洋画が廃止となった時代、「洋画の道場」として、これまで浅井忠、黒田重太郎をはじめ多くの指導者に支えられ、文化勲章を受章した梅原龍三郎、安井曾太郎、田崎広助ら日本洋画界を代表する画家を数多く輩出するなど、京都に洋画を根付かせた。</p> <p>現在も、児玉健二理事長の下、「絵画を学ぶ人の為のオープンアトリエ」として非営利で運営され、初心者からプロの画家まで幅広い年齢層の生徒が在籍するなど、京都における洋画の振興に大きく貢献している。</p>		
沿 革	<p>明治34年 京都・大阪の画家を中心に相互協力の場として関西美術会が設立</p> <p>36年 浅井忠が自宅アトリエで教育活動を開始（聖護院洋画研究所）</p> <p>39年 関西美術会と聖護院洋画研究所が統合し、「関西美術院」開院（武田五一設計） 浅井忠が初代院長に就任</p> <p>大正11年 改組第1回関西美術会展</p> <p>昭和 2年 第1回白堊会（～16年。19回開催）</p> <p>43年 理事制度へと指導体制を改革。黒田重太郎が初代理事長に就任</p> <p>51年 第1回関西美術院生展（京都府立文化芸術会館。以降毎年開催）</p> <p>10年 夜間石膏科を開設</p> <p>平成18年 創立100周年記念「浅井忠と関西美術院展」（京都市美術館）</p> <p>21年 一般財団法人となる</p> <p>28年 アトリエが国の登録有形文化財に指定</p> <p>29年 故・三谷祐幸前代表が石山寺へ寄贈し、同寺の所有となる</p> <p>令和 2年 故・三谷祐幸前代表が、京都市文化芸術産業観光表彰（有功賞）を受賞</p>		

(別紙2)

京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員

(敬称略)

氏名	職業(役職)
赤松 玉女	京都市立芸術大学学長
大嶋 義実	京都市立芸術大学副学長, 同音楽学部教授
熊倉 功夫	MIHO MUSEUM館長, 国立民族学博物館名誉教授
潮江 宏三	京都市立芸術大学名誉教授
篠原 資明	高松市美術館館長, 京都大学名誉教授
田中 美鈴	青山音楽財団理事長
中川 成美	立命館大学特任教授
原田 奈名子	大谷大学教授
藤田 隆則	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授
森西 真弓	大阪樟蔭女子大学教授
村上 圭子	京都市副市長

京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者一覧（過去3年分）

表彰 年度	芸術新人賞		芸術振興賞	
	氏名	分野	氏名	分野
令和 元年	石上 真由子 <small>いしがみ まゆこ</small>	洋楽(ヴァイオリン)	石原 完二 <small>いしはら かんじ</small>	洋舞
	今村 遼佑 <small>いまむら りょうすけ</small>	現代美術	上村 雅之 <small>うえむら まさゆき</small>	メディア芸術(ゲーム)
	入澤 あづさ <small>いりざわ あづさ</small>	漆芸	桂 勘 <small>かつら かん</small>	舞踊
	宇高 竜成 <small>うだか たつしげ</small>	能楽	神林 恒道 <small>かんばんやし つねみち</small>	学術(美学)
	大森 静佳 <small>おおもり しずか</small>	文学(短歌)	高林 白牛口二 <small>たかばやし しろうじ</small>	能楽
	鬼頭 健吾 <small>きとう けんご</small>	現代美術	鶴田 憲次 <small>つるた けんじ</small>	洋画
	木野 智史 <small>きの さとし</small>	陶芸	増井 信貴 <small>ますい のぶたか</small>	洋楽(指揮)
	澤田 瞳子 <small>さわだ とうこ</small>	文学(小説)	/	
	服部 しほり <small>はっとり しほり</small>	日本画		
	蛭田 美保子 <small>ひるた みほこ</small>	洋画		
寄田 真見乃 <small>よりた まみの</small>	邦楽(尺八)			
平成 30年	石塚 源太 <small>いしづか げんた</small>	漆芸	熊谷 寿美子 <small>くまがい すみこ</small>	芸術振興
	上田 誠 <small>うえだ まこと</small>	演劇	箱崎 睦昌 <small>はこざき むつまさ</small>	日本画
	大江 信行 <small>おおえ のぶゆき</small>	能楽	林 潤一 <small>はやし じゅんいち</small>	日本画
	岡本 啓 <small>おかもと けい</small>	詩	ミッシェル・ワッセルマン	芸術振興
	川田 知志 <small>かわた さとし</small>	壁画	京都フランス歌曲協会 <small>きょうと かきょくきょうかい</small>	音楽
	酒井 健治 <small>さかい けんじ</small>	作曲	公益財団法人 中信美術奨励基金 <small>こうえきざいだんほうじん ちゅうしんびじゅつしやうれいききん</small>	芸術振興
	茂山 忠三郎 <small>しげやま ちゅうさぶろう</small>	狂言	/	
	トーチカ <small>(ナカタ タケシ, モンノ カヅエ)</small>	現代美術・映像		
三木 啓樂 <small>みき けいご</small>	漆芸			
平成 29年	あごう さとし	演劇	有馬 えり子 <small>ありま こ</small>	洋舞
	上田 順平 <small>うえだ じゅんぺい</small>	陶芸	木村 英輝 <small>きむら ひでき</small>	絵画
	笹岡 由梨子 <small>ささおか ゆりこ</small>	現代美術	竹宮 恵子 <small>たけみや けいこ</small>	漫画
	谷原 菜摘子 <small>たにはら なつこ</small>	洋画	森 悠子 <small>もり ゆうこ</small>	洋楽
	田村 響 <small>たむら ひびき</small>	洋楽	細見美術館 <small>ほそみびじゅつかん</small>	芸術振興
	三橋 卓 <small>みつはし たく</small>	日本画	/	
	楽 雅臣 <small>らく まさおみ</small>	彫刻		

(敬称略)

【芸術新人賞】



いながき みちこ
稲垣 路子 (洋楽 (トランペット))

【芸術新人賞】



いのうえ まい
井上 舞 (日本画)

【芸術新人賞】



©Naoko Azuma

きのした ゆういち
木ノ下 裕一 (演劇 (監修・補綴))

【芸術新人賞】



くるり (音楽)

【芸術新人賞】



contact こんたくと こんぞ
contact Gonzo (現代美術/パフォーマンス)

【芸術新人賞】



たにざわ きわこ (現代美術)
谷澤 紗和子 (現代美術)

【芸術新人賞】



たるま しょうこ (漆芸)
柞磨 祥子 (漆芸)

【芸術新人賞】



なかの りょうた (映画 (監督))
中野 量太 (映画 (監督))

【芸術新人賞】



ふくだ きはる (日本画)
福田 季生 (日本画)

【芸術新人賞】



もりみ とみひこ (文学 (小説))
森見 登美彦 (文学 (小説))

【芸術新人賞】



わかき くるみ (版画 / 現代美術)
若木 くるみ (版画 / 現代美術)

【芸術振興賞】



いちだ ひろみ (服飾文化)

【芸術振興賞】



かわたに のぶこ (染織)

【芸術振興賞】



きし たつお (学術 (演劇評論))

【芸術振興賞】



きしろ よしじ (彫刻)

【芸術振興賞】



しらいし たかこ (洋楽 (フルート・指揮))

【芸術振興賞】



はやし みえこ (邦楽 (柳川三味線))

【芸術振興賞】



やまぐち とみぞう
山口 富藏 (食文化)

【芸術振興賞】



公益財団法人稲盛財団 (芸術振興 (文化全般))

【芸術振興賞】



かんさいびじゆつていん
関西美術院 (芸術振興 (美術))